令和元年度第２回長門警察署協議会会議録

開 催 日 時		令和元年８月２９日（木）　１５：００～１６：５０
開 催 場 所		長門警察署　３階　講堂
出席者	委　　員	佐々木委員（会長）、河本委員、藤井委員、杉本委員、木村委員 計　５人
	警 察 署	署長、次長、会計課長、刑事・生活安全課長、交通課長、警備課長、警務課長、警務係長 計　８人
議　　題		１　所管業務の推進状況について ２　高齢者の交通事故防止対策について

１　会長挨拶

新たに会長に就任した佐々木です。

長門警察署員におかれては、昼夜を分かたず我々市民のために尽力されており、私たちが安心して生活できるのも、署員の皆さんのおかげであると感謝している。

本日は、我々協議会委員が警察署に対して様々な意見や提言をさせていただき、警察署協議会が市民の安全・安心のために実りのある会となるよう、様々な意見を出していただきたいと思う。よろしくお願いする。

２　署長挨拶

（省略）

３　所管業務の推進状況（署長）

(1)　刑事・生活安全関係業務

ア　長門署管内の刑法犯・特別法犯の認知（検挙）状況

（令和元年７月末現在　暫定値）

イ　主な検挙事例（令和元年７月末現在）

(2)　地域関係業務

ア　地域の安全・安心確保のための活動（令和元年７月末現在）

○　地域警察官の犯罪検挙人員

○　要望把握活動

○　問題解決活動

○　情報発信活動

○　SS（シニアセーフティ）訪問指導の実施

イ　迅速的確な初動活動の推進（令和元年７月末現在）

○　１１０番受理状況

○　トータルリスポンスタイム

(3)　交通関係業務

ア　交通事故発生状況等（令和元年７月末現在）

イ　交通死亡事故の特徴

ウ　交通事故抑止対策推進状況

○　高齢ドライバー、高齢歩行者が安全に過ごせるための対策

○　反射材・ハイビームの活用促進

○　速度抑制対策の推進

(4)　警備関係業務

ア　災害警備

イ　警護警備

ウ　雑踏警備

４　協議・検討

（委員）

巡回連絡の実施世帯数を見たところ、前年対比で減少傾向が見られるが、これは逆に適正な数値になっているのではないかと感じている。

巡回連絡の件数は、年々増加しているように見ていたが、各家庭を回ってもらうことはありがたいと感じる反面、それは警察官の業務負担になっているのではないかと危惧していた。適正な回数というのがあると思うので、一般家庭に対する巡回連絡の回数を減らしてでもシニアセーフティの方にシフトしてもらえれば、独居の方や高齢者の方がより安心できるのではないかと感じた。

（委員）

私たちは、中山間地域に住んでおり、周りの方々が亡くなられたり、女性の独り暮らしの方が増えているのをひしひしと感じているところである。

９月に新しく道路が開通することで交通の流れも変わってくると考えられ、そのような中で高齢者が道路に出て交通事故の被害に遭うなどの可能性も考えられる。

制服警察官が地域を回ってくれて、その姿を見せてくれるだけで防犯活動になると思う。

今後、よそから来る人が増える可能性もあり、多忙であるとは思うが、是非地域を回っていただきたい。

（署長）

特に中山間地域は、高齢者の独居世帯が多くなってきていると思われる。

同地域は、交番というより、駐在所の管轄になるので、駐在所員がこまめに巡回連絡を行って、交通安全指導や詐欺被害防止の広報などを地域に密着した活動として進めて行きたい。

また、今回の大雨などのように災害が発生しそうな場合には、警察署からパトカ

ーを派遣して警戒するなどの対応も実施するが、引き続き中山間地域の方々が安全で安心して生活できるような活動を推進していきたい。

（委員）

最近、湯本地区に宿泊で訪れる観光客には、これまでと違って、夜遅くにチェックインして、朝早くにチェックアウトしていくパターンが増えている。

そのような中で湯本地区の道路は、交通事故防止対策の社会実験のために、わざと道幅を狭くするなどの措置がなされており、地域住民は市役所の担当者の話などを聞いて理解しているが、初めて湯本地区を訪れる観光客などが夜間にその道を通行する時に、危ないと感じることが何回かあった。この社会実験中の通りの夕方から夜間にかけての通行が危険ではないかと気になっている。

（署長）

道路交通に関する必要な安全対策については、道路管理者から警察（公安委員会）に対する意見聴取なども行われており、警察としても道路管理者に対して意見を伝え、調整しながら対策を進めているところである。

特に、車両の通行と歩行者の通行が混在するしかない場所では、引き続き道路管理者と継続して意見交換を行いながら、どのようにするのがより安全であるかを順次検討していきたいと思う。

（委員）

道路管理者とは、長門市になるのか。

（署長）

市道であるので、道路管理者は長門市となる。

（警務課長）

先日、委員の話された道路を通行して確かに狭さを感じたが、ただ今、社会実験の対象道路と聞いて、初めてその意図を理解した。

（委員）

確かに、周囲に対する告知も足りないと思う。

（警務課長）

そういった意味で話を聞くと、運転する側としては、「狭い、危ない」という意識を持つと思う。だから、「速度を出さずにゆっくり通行しよう。危ない道路だから慎重に通行しましょう」という趣旨でそのような道が作られていると分かれば、通行する人は、注意しながら走行するのではないかと考える。

山口市でも山口高校の正門付近の道路では、同じようにわざと直進ができないようにしたり、道路に段差をつけているが、生活道路で学生や生徒が事故に遭わないよう、速度を落とす作りとなっている。

そのような面で理解すると、皆さんがゆっくり通行するための道路として考えることができる。

そして、付近に生活されている住民の方々がその趣旨を理解されて、観光客などに対して、安全のための道路であることをアピールしていただけたら、湯本地区の利点となるのではないだろうか。

みなさんのご理解と周囲に対する周知が広がっていけば、湯本地区はかえって良

い所となるのではないか。
（委員）
令和に入って、全国的に凶悪な事件や悲惨な事故の発生が多いと感じているところであったが、今回の資料を確認して長門市内でもコンビニ強盗未遂などが発生しているし、いつ何時、何があるかわからないということで、警察の方々も大変だと実感した。
個人的には、約１か月前に家族で買い物をしていたときに、市内のドラッグストアの中で不審な男性にいきなり声をかけられたりした経験があり、長門市内でもそのような変な者を見ることがあって、全国的な事件と同様のことが起きるかもしれないと安心できない状況であると感じている。
（署長）
委員の意見のとおり、どこで、何が起きるのか分からないという時代になっている。長門市内だから凶悪な事件は起きないだろうなどという予想は、全く当てはまらなくなってきている。
我々としては、全国的な事件・事故から、「これはどこででも起こりうる」と認めた時や長門市内で発生した事件などについては、メールマガジンなどで市民に周知して注意喚起を行い、事案が発生した時には１１０番通報などしてもらうよう、併せてお願いをしている。
最近では、子供の見守り活動などに力を入れて対応しているが、地域の皆さんが協力して地域ぐるみでの犯罪抑止に対する取組を進めていくことが大切だと認めるところであり、引き続き事件事故の情報提供や対応要領などについても様々な機会を通じてしっかり広報していきたいと考えている。
（委員）
交通死亡事故が８月に起きたということで、長門署管内の死亡事故件数が１件になってしまったが、私の友人が毎年お盆の時期に帰省してくるので、高校の同級生としての集まりに参加したところ、その時の話として「最近、長門市内の速度取締りが増えた気がする」という話を聞いた。私としては、来年度の死亡事故ゼロを目指してこれからも取締りをしっかりやってもらいたいと考えている。
センターラインのオーバーが、脇見か速度かは分からないが、主な事故の原因はスピードの出し過ぎであると考えるので、「死亡事故ゼロの長門市」を目指してこれから年末まで続けることができれば大きな進歩ではないかと思う。
また、街頭において警察官の姿を見掛けると、無意識のうちにブレーキに足がいって速度が落ちる、これだけでも事故の抑止につながるのではないかなと思うし、その時にパトカーが赤色灯を点灯している様子を見ると、それが事故抑止に必ずつながると考えるので、これからも引き続いて街頭活動を続けてもらいたい。
５　諮問事項説明
交通課長が作成資料を基に高齢者の交通事故防止対策について説明を行った。
(1)　運転免許自主返納制度
ア　免許証保有実態等
イ　推進事項

(2)　各種講習会の実施
　ア　関係機関等との連携
　イ　推進事項
(3)　広報活動の推進
　ア　キャンペーンの実施
　イ　推進事項
(4)　効果的な取締り
　ア　速度取締り
　イ　横断歩道における歩行者優先広報、横断歩行者妨害違反の取締り

6　協議・検討
（委員）
今の説明の中で、車の運転免許を持っていない高齢者は、交通ルールを知らない方が多いという話を聞いて、腑に落ちた。そのような理由で、左右を確認せずに道路を横断したり、危険な自転車の乗り方をされる高齢者もいるのだなと納得した。
今までそのようなことを考えたことがなかったので、よく分かった。
（交通課長）
もともと、自分たちが住んでいた土地の中に新たに道路ができたという観点の方々が多いようで、自分たちが通っていたあぜ道のところに後から道路ができたのだから、自分は今までどおり同じように渡るというような人がいるのも事実である。
（委員）
高齢者の様子を見ていると本当にそのように思う。家族と話していても、絶対に自分の道と思って歩いていると感じるような動きの高齢者がいるが、そういうことなのだと理解できた。
それから、今年のお盆の時期に、帰省した息子や娘などの家族が、高齢の両親が運転する車に同乗してアドバイスをするというテレビＣＭを見た。
こういうものは、とても良いものだと思った。
自分自身の両親も高齢になって、家族としてもだんだんと不安を感じるようになってきている。ここ最近の高齢運転者が引き起こした悲惨な事故のニュースを見聞きする度に、両親にも話をして早期に免許返納を促すようにしているが、なかなか聞き入れる様子がないので、引き続き話をしていきたいと感じている。
（交通課長）
運転免許取得後は、交通事故を起こしたり、交通違反で検挙されたりしなければ、自分の運転を評価される機会はほとんどなく、誰も気づかない状況が現実である。そのような中で、身近な家族が高齢者の運転を評価してもらえるのは大変助かることだと思う。
（委員）
運転免許証を自主返納される方というのは、安全に対する意識がある方ということだと思うが、大丈夫だと思って運転を続けられる方が事故を起こしてしまうと思

うので、自主返納された方への手厚い対応などが増えると良いのではないかと思う。

東京都豊島区東池袋での事故のような高齢者と、長門市内の居住者とでは、通院や買い物など環境面では状況が違うと思うので、通院のためのシャトルバスの様なものか、タクシーチケットの補助などが増えていけば、自主返納をする人も増えるのではないだろうか。

（交通課長）

都市部と同じようには考えられない現状があると思う。

買い物一つでも、歩いて行ける距離にない場所に住んでいる方もおられ、そこをどのようにケアしていくのかというのがこれからの課題になってくると考える。

車を持たずにタクシーなどを使った方が使うお金は少ないとは言うものの、実際に田舎に住んでいる人にとって本当にそうなのかと考えると、どこまで経済面でサポートできるのかということについて公共交通機関などを交えてできるだけ考えていきたい。

（署長）

都市部であれば、電車やバスなど公共交通機関が発達しているので、免許証を返納すればいいのでは、という考え方になるが、同じような考え方は田舎では通用しないといえる。

自主返納の話も出ているが、高齢者にとっては運転免許を持っていること自体がプライドを保つものであったり、現実問題、買い物などで車を手放すことができないということもある。

山口県では、約１０年前に運転卒業証制度（運転卒業者サポート手帳）という施策を始めたが、免許証を自主返納された高齢者の方々にその後の生活支援を少しでも手助けしたいという趣旨で始めたものだが、この支援も限られた支援でしかない。

ということを考えると、地域全体で行政が主体となって免許を持たない高齢者の交通手段をどうするのかということについて真剣に取り組んでいかないと、本来は免許証を返納すべき高齢者が道路上で運転を続けた結果、悲惨な交通事故を引き起こすという取り返しのつかないことになりかねない。

この問題はこれからの課題であり、警察としても意見をする場においては、力を入れて話をしていきたいと考えている。

（委員）

家族とともに生活している高齢者であれば、その家族のケアを受けることができるので心配は少ないが、独り暮らしの高齢者は、自分自身の体調がおかしくなってもそれに自分で気づくことができないので問題であると考える。

病気になっても、独り暮らしであるために周りの誰からも気づいてもらえない高齢者の存在が増えてきているように思われる。

（交通課長）

先ほどの山間部の地域のように、駐在所員にこまめに地域の巡回を行わせたり、免許を持っていない高齢者宅へも訪問指導を行っているので、その際に可能な範囲

で健康状態の把握もしている。
　付近居住の住民の方から様子のおかしい高齢者の情報提供があれば、訪問するきっかけにもなるので、そのような情報を認知した時には、警察への積極的な連絡をお願いしたい。
（委員）
　我が家では、今年の初めに母親が免許証の自主返納を行った。
　そのきっかけは、自宅駐車場への駐車が上手くできなくなったことを家族が知って、事故を起こす前に運転をやめた方がいいという話になったからである。
　買い物などは、家族が対応して連れて行くということになって自主返納したものである。
　一方で、市内の道路を通行する高齢者には、安全運転ではあるものの、他の車両の流れを無視した低速度で走行する車が散見されるがそのような車に対しては取り締まることはできないのか。
（交通課長）
　車の正常な流れを著しく阻害するような速度の車に対しては、パトカーで注意することはできるので、そのような車を発見した場合には、１１０番通報をしてもらうと、付近通行中のパトカーが対応して指導することができる。
（委員）
　家族に運転免許を持った高齢者がいる家庭は、いずれも同じような問題を抱えているようであるが、我が家もまた同様である。
　私の親類にも運転免許を持った高齢者がいるが、やはりなかなか免許を返納することに納得せず、何かにつけて車を運転しようとしている。
　運転が危険なので車の鍵を持たせないようにしたり、車を使用させないようにしているが、このような高齢者に対して納得して運転免許を自主的に返納させる決め手みたいなものはないだろうか。
　我が家では、４月に発生した東京都豊島区東池袋での高齢運転者による暴走事故を例にして説得したりしているが、それでもまだ運転をやめるという決心にまでは至っていない。
（交通課長）
　事故の報道は、その映像も含めて全国的にかなりの影響があったと考えられている。しかしながら、自分の家族を説得できるのは、やはり一番はその家族ではないかと考える。
　警察官が当事者に話をして説得することもできるが、やはり最終的には、「人生の終盤で最後の最後に交通事故を起こしてしまった、他人の命を奪う結果になってしまった」ということを防ぎたい家族の一言が最も大切なのではないかと考える。
（署長）
　これは、他署での取組事例であるが、自主返納に踏み切れない高齢者に対して、既に免許証を自主返納した別の高齢者から話をして説得するという試みも行っている。同じ高齢者同士、既に自主返納をした者からの話であれば、少しは話を聞いてみようかというお年寄りもいるようである。

これまでに警察官からの話や事故の悲惨さを説明して、自主返納に至った事例もあるが、「免許を返納しても生活に支障は無い」ということを理解できれば、納得して運転をやめることができるのではないかと考える。

7　その他意見

（委員）

最近、野生の動物が近辺に増えているような気がする。

キツネやアライグマ、ヌートリアなどを近所で見掛ける機会が多くなり、これらの動物が人間を恐れなくなってきている。

付近の農家の畑なども荒らされているようであり、今後の増加や被害の発生が危惧される。

キツネだけでなくイノシシなども人間を恐れなくなってきているようで、人間に対する危害を加えるようにならないかと心配している。

（次長）

獣に対する対策では、警察としては交番・駐在所による広報紙で地域住民に対する注意喚起を行っている。

○　農作物は、畑に残したままにせずに全て収穫する

○　獣を見掛けたときには近づかない

○　危険を感じたときには警察に通報する

などを呼び掛けているが、獣の発見について通報を受けた場合には、市当局や猟友会などに連絡をして連携を保ち、住民に危険が及ばないようにしっかりとした安全対策をとって対応していきたいと考えている。

8　配付資料

令和元年度第２回長門警察署協議会資料（警察署作成）

9　次回協議会の開催日程

次回の警察署協議会は、令和元年１１月中に開催する予定である。